

国指定史跡  
日本百名城

箕輪城跡

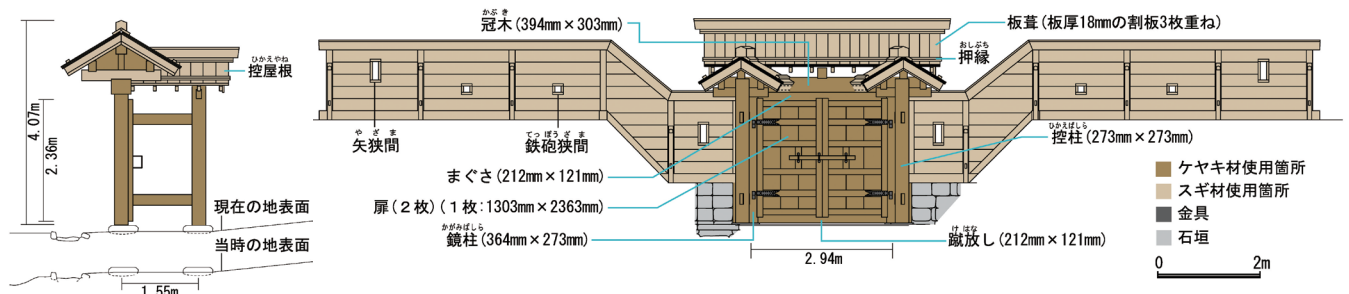
ほん まる にし こ ぐち もん  
本丸西虎口門

高崎市

## 本丸西虎口門とは

平成15年(2003)の発掘調査により、蔵屋敷から本丸へと架かる木橋を渡った地点で、城門の礎石4個や石垣、排水遺構(石組暗渠)などの門に関わる遺構が見つかりました。各地に現存している近世初期の城門や絵図などを参考にし、門の建物構造を推定しました。

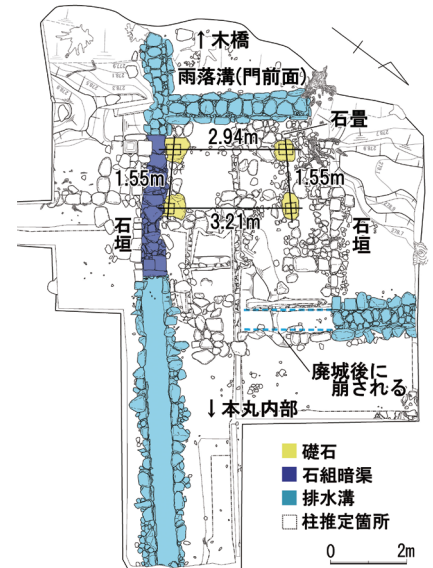
この門の桁行(幅)は2.94mと、本丸に存在する3つの門の中で最大幅を誇り、本丸門の中で唯一木橋を渡って進入する構造から、往時は重要な出入口であったことが推測されます。



本丸西虎口門のかたち(右:背面立面図、左:南側側面図および基礎断面模式図)

## 発掘調査でわかったこと

- **高麗門の構造** 前面の鏡柱2本の礎石間より背後の控柱2本の礎石間のほうが広いことから、鏡柱を控柱で支え、開いた状態の扉を覆う控屋根を備えた「高麗門」の構造であると考えられました。
- **石垣の構造** 門の両脇には高さ約0.85mの石垣があり、自然石とともに、中世の石塔(五輪塔)の石材を転用して築かれていたことがわかりました。
- **排水技術** 南側の石垣脇に石組暗渠があり、本丸内に溜まった雨水などを堀に排出するための構造物であると考えられました。
- **時期変遷** 礎石や排水溝、石垣・石畳などがつくられた後、井伊氏時代の頃(16世紀末)に、石畳に土を被せる等の改修をしたことが確認されました。
- **板葺の屋根** 瓦が出土しなかったため、屋根は板葺と推定されました。

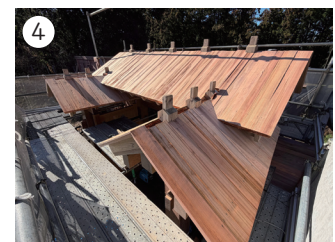


発掘調査時の本丸西虎口(図面)

## 復元整備の工程

石垣の整備を含めて、およそ5年の歳月をかけて復元工事が完成しました。

- ① 発掘調査で見つかった石垣のうち石塔部分を型取りし、GRC(ガラス繊維補強セメント)で複製品を作製する。
- ② 作製した石塔の複製品と自然石を組み合わせ、積み上げ、石垣や石組暗渠などを復元する。
- ③ 礎石上面の形状に合うよう柱を加工して(光付け)建て、伝統的な工法を用いて木材を組み上げる。
- ④ 手割りした杉板(厚18mm)を3枚重ねて門の屋根を葺く。



【本丸西虎口門見学のご案内】 門の扉は終日開いていますので、自由に門を通ることができます。

【発行・お問い合わせ】 高崎市教育委員会文化財保護課 (電話: 027-321-1292) 令和8年3月発行